

# 赤井川村子ども読書活動推進計画

平成28年3月

赤井川村教育委員会

# 赤井川村子ども読書活動推進計画

## 目 次

### 第1章 基本的な考え

1 計画の目的	1
2 赤井川村の現状	2
3 計画の目標	3
4 計画の期間	3

### 第2章 具体的な取組

1 幼少期における読書活動の推進	4
2 学校における読書活動の推進	5
3 村図書コーナーにおける読書活動の推進	6
4 関係機関の連携・協力による読書活動の推進	6



## 第1章 基本的な考え

### 1 計画の目的

近年、様々なメディアや娯楽の台頭、インターネットをはじめとする情報化社会の進展に伴い、子どもたちの興味・関心が多様化してきており、読書に魅力を感じない子や活字離れの子が増加傾向にあります。

子どもが読書を行うことは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくために不可欠なものと考えます。

自ら進んで本を読む子どもたちを育てていくことは、子どもたち自身の将来のために、そして明日の社会の発展のために欠くことのできない極めて重要なことであり、地域社会全体の問題として取り組んでいく必要があります。

また、乳幼児期の家庭生活では、本の読み聞かせなど、子どもが最初に読書と出会う場であり、読書習慣を身につけさせるための重要な役割を担う時期でもあります。保護者自身が読書の必要性や大切さを認識し、子どもを育てていく必要があります。

さらには、小学生期に良質な本と出会うことは、読書に対する興味・関心を広げるとともに、その後の中学生期や高校生期の読書習慣を身につけさせるために大きな影響を与えるものと考えられています。

赤井川村では、子どもの読書活動の推進に向け、村図書コーナーや学校図書館図書の実充や関係機関との連携、読み聞かせボランティアによる活動の支援等を行ってきました。

本計画では、これまで行ってきた事業の見直しや、子どもたちの現状を再認識する中で、赤井川村の子どもたちがこれまで以上に自発的・積極的に読書活動に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身につけることができるよう、地域や学校、教育委員会等が連携しながら読書環境の向上を目指す指標となる「赤井川村子ども読書活動推進計画」を策定します。



## 2 赤井川村の現状

### (1) 村図書コーナーの現況

- 蔵書冊数 5, 843冊（平成26年度末）
- 利用者数 269人（平成26年度実績）
- 貸出冊数 682冊（平成26年度実績）

平成25年度に古い本の除籍（廃棄）を行ったため、蔵書冊数は減りましたが、毎年新刊を中心に約300冊を購入しており、今後も子どもから高齢者までに喜ばれる図書の充実を図ります。

### (2) 学校図書館の現況

- 学校図書館蔵書数（平成26年度末）
  - 赤井川小学校 3, 035冊
  - 都小学校 2, 206冊
  - 赤井川中学校 5, 155冊
- 学校図書館貸出冊数（平成26年度末）
  - 赤井川小学校 40. 0冊
  - 都小学校 68. 7冊
  - 赤井川中学校 6. 9冊

※数値は児童・生徒一人あたり。

※都小学校は2名の児童が数百冊を読んでいたため高い数値となっている。

平成25～26年度に古い本の除籍（廃棄）を行ったため、蔵書冊数は減り、文部科学省が定める学校図書館図書基準（学校図書館にあるべき図書の冊数）を大きく下回ることとなりましたが、毎年図書の購入をしており、今後も児童・生徒に喜ばれる図書の充実を図ります。



### 3 計画の目標

子ども読書活動を推進するにあたり、学校における教育活動での読書活動はもとより、家庭・地域社会が一体となって、子どもがあらゆる機会や場面において、自発的・積極的に読書活動を行うことが大切です。そのために赤井川村では読書活動の環境づくり等を関係機関とともに行っていきます。

#### ○読書推進の体制づくり

- ①子どもたちが読書習慣を身につけるための環境づくり
- ②学校・家庭・地域社会が連携した読書活動の推進
- ③読書を楽しむための機会の提供
- ④読書の楽しさを伝える啓発活動

#### ○具体的な目標

##### ①学校図書館図書蔵書冊数（平成26年度末→平成31年度末）

赤井川小学校 3,035冊 → 4,560冊

都小学校 2,206冊 → 3,520冊

赤井川中学校 5,155冊 → 5,440冊

※目標値は文部科学省学校図書館図書基準の冊数とする。

##### ②1年間の学校図書館貸出冊数（平成26年度末→平成31年度末）

赤井川小学校 40.0冊 → 50冊

都小学校 68.7冊 → 50冊

赤井川中学校 6.9冊 → 12冊

※現状の1.2倍以上を目標値とする。ただし都小学校は赤井川小学校と同じ目標値とする。赤井川中学校は月1冊を目標値とする。

※数値は児童・生徒一人あたり。

##### ③村図書コーナー蔵書冊数（平成26年度末→平成31年度末）

5,843冊 → 7,600冊

※現状の1.3倍を目標値とする。

##### ④1年間の村図書コーナー利用者数（平成26年度末→平成31年度末）

269人 → 400人

※現状の1.5倍を目標値とする。

##### ⑤1年間の村図書コーナー貸出冊数（平成26年度末→平成31年度末）

682冊 → 1,000冊

※現状の1.5倍を目標値とする。

### 4 計画の期間

平成28年度から平成32年度までの5ヶ年とし、必要に応じ計画の見直しを行います。

## 第2章 具体的な取組

### 1 幼少期における読書活動の推進

#### ①ブックスタート

子どもの読書習慣の確立に向けては、幼児期から本に出会いふれあうことや子どもの読書活動に対して保護者の理解を得ることが大切です。ブックスタート事業は、ひよこの会等多くの保護者や乳幼児が集まる機会に本（スタートパック）を手渡すとともに、保護者へ読書活動の大切さや読み聞かせ方法などを啓発する「学びの場」でもあります。今後も保健師やブックボランティアと連携し、ブックスタート事業を支援していきます。

#### ②保育所における読書活動の推進

保育所は子どもが早い時期から本に出会う場所です。幼児期に絵本に親しみ、様々なことを想像することは、豊かな心を育み、今後の読書活動の基礎となります。

保育所では、保育士による絵本の読み聞かせが日常的に行われています。今後も子どもの読書活動の大切さを関係機関と共有することにより、引き続き読み聞かせ等本とのふれあう機会を増やしていくことに努めます。

#### ③児童用図書（絵本等）の購入

幼児期から良い本に出会うことは大切ですが、絵本等は高価であり、一家庭でたくさんの絵本等を購入することは難しいのが現状です。教育委員会では、これまでも村有図書の購入時に、絵本の購入を行い、幼児や保護者が集まる健康支援センターに配置し、貸出を行っています。今後もブックボランティアや保護者の意見を参考に、児童用図書の充実を図ります。



## 2 学校における読書活動の推進

### ①学校図書館の環境整備

小中学校の学校図書館は、児童・生徒の自由な読書活動の場であり、学習に対する興味や関心を呼び起こすとともに、豊かな心を育む場でもあります。しかしながら、現状ではこれらの機能を果たすための十分な蔵書が揃っているとは言えません。このため、文部科学省が定める学校図書館図書基準で定める学校毎の蔵書数を早期に整備し、図書の充実を図っていきます。また、図書の不足を補うとともに、資源の有効活用をめざし、小学校間での図書の貸し借りや村図書コーナー、北海道立図書館等の図書の一括貸出等を推進していきます。

また、学校図書館が魅力的な場となるよう、児童・生徒、教職員、ボランティア等が協力し、展示の工夫や図書の整理等に努めます。

### ②読書推進イベント等の開催

子どもが本にふれあうきっかけとして、ブックフェスティバルやブックトークは効果的であると考えます。今後も北海道立図書館等と協力し、子どもたちが本の楽しさを知る機会を増やしていきます。

### ③ブックボランティアによる読み聞かせ活動等の支援

現在、村内2校の小学校ではブックボランティアが読み聞かせを行ったり、学校図書館の飾りつけ等を行ってくれています。今後も魅力的な学校図書館を維持し、学校内での読書活動が充実するためにはブックボランティアの存在が不可欠です。

今後は、中学校とも連携し、ブックボランティアの協力を得ながら、村全体で学校図書活動の充実を図っていきます。

### ④朝読活動の推進

村内小中学校では、読書習慣の定着をめざし、「朝読」活動を積極的に行っています。今後も各学校と協力し、子どもたちが本とふれあう時間の確保に努めます。



### 3 村図書コーナーにおける読書活動の推進

#### ①図書情報の提供

村の図書コーナーでは新刊購入時や毎月のオススメ図書などを村のホームページ等でお知らせしています。今後も図書コーナーの利用拡大のため、情報発信は積極的に行っていきます。

また読書週間のPRや各種文芸賞等、図書に関する情報提供も行い、多くの方に読書に興味を持っていただく取り組みを進めます。

#### ②中学校等への図書の貸出

平成26年度より学校図書館図書の不足を補い、現有資源を有効活用するため、中学校等に図書の一括貸出を行っています。今後も中学校と協力し、貸出する機会を増やすよう努めます。

#### ③村図書コーナーの環境整備

村図書コーナーは平成26年以前は村役場2階ホールにありましたが、利用者の利便性を考慮し、同年現在の村役場1階玄関ホールに移設しました。これに合わせて、図書の分類表示や手書きポップの貼付、新刊等の面出し等環境整備を行いました。これらのことにより、利用者数、貸出数は年々増加している状況にあります。しかしながら、限られた場所であるため、毎年購入する図書を全て管理するためには数年後に手狭になることが見込まれます。当面は生活改善センターや健康支援センターの図書コーナーに本を分散し対応していきますが、住民から村民向け図書室や図書コーナーの充実を求める声もあり、他の施設整備等と併せ、今後の検討課題とする必要があると考えます。

また図書の購入は年に数回行っていますが、今後も利用者からの要望を聞き、みんなに愛され、多くの方に喜ばれ利用される場所となるよう努力してまいります。

### 4 関係機関の連携・協力による読書活動の推進

#### ①ブックボランティアの育成・連携強化

各学校のブックボランティア活動は年々活発になってきていますが、協力していただける方が固定化している現状にあります。今後ともこの活動を維持・拡大していくためにはブックボランティアの必要性を知っていただき、保護者や地域住民の方々に積極的に参加していただく必要があります。教育委員会としても学校に協力し、ブックボランティアの確保に努めるとともに、交流の場の設置や、関係機関との協力や活動支援を行っていきます。

#### ②北海道立図書館等との連携強化

学校図書館図書の不足解消や、ブックフェスティバル等のイベントの開催に北海道立図書館にこれまでも協力をいただいています。今後も様々な読書活動の場面で、おいて相談、情報交換等を行い、事業の積極的な活用を行っていきます。